
ちやいろのぼんた

久世 飛薙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちやいろのぼんた

【Nコード】

N9472P

【作者名】

久世 飛雛

【あらすじ】

とある少女と、ぼんたという謎多き大きなウサギとの日常です。

(前書き)

子供の豊かな想像力に着目してみました。

ぼんたはウサギ。

大きな大きなちやいろのウサギ。

だから、ネコが使う小さな出入口は使えないの。

ぼんたとお散歩に行くとき。ぼんたとお散歩から帰ってきたとき。

いつも、私がぼんたのために玄関を開けてあげるのよ。

私は、ぼんたが大好き。

ぼんたも、私が好き。

ずーっといつしょ。

ずーっと大好き。

ぼんたは自由。

いつつも気まま。

だから、いつでも好きなときにご飯を食べて、好きなときにお散歩して、好きなときにお昼寝するの。

そして、ぼんたが望んだら、毎日がぼんたのお誕生日になるの。

ぼんたのお耳は、ほかのウサギさんたちよりも、少しだけ小さくてかわいい。

頭の上に、ぴよこつと立ってるの。でも、ぼんたにはいろんな音がよく聞こえるのよ。

私が公園でころんで一人ぼっちで泣いていたときには、すぐにぼんたが迎えに来てくれた。私の泣き声が、遠くからでも聞こえたんだって。

ぼんたは素敵な音楽家。

たくさんのお歌が上手に歌えるし、ピアノを弾くのもとても上手なの。

ぼんたは、いろんなお歌を知っているけれど、歌うのはいつも、ぼんたが自分で作ったお歌。

ぼんたが私のために作ってくれたお歌もあるの。

ぼんたが好きな食べ物。

チョコレートと、ママが作ったドーナツ。

おやつがチョコレートのときは、いつも私の一枚をはんぶんこにしてぼんたにあげるの。

ママがドーナツを作ってくれたときには、ぼんたは両手にもったドーナツの二つのまんまるの穴から、私をのぞいて嬉しそうに笑うの。

ぼんたの寝床。

私の部屋の押し入れの上の段。

ぼんたは、そこが暗くて静かでいちばん落ち着いて眠れるんだって。私は、ぼんたと昔みたいにいっしょに眠りたいけれど、ぼんたは私に「もうきみも大きくなったんだから、ちゃんと一人で寝れないとだめだよ」って言うの。

そして、私はどんどん大きくなった。だけど、ぼんたはずーっとぼんたのまんま。

ある朝、ぼんたにいつものように「おはよう」を言おうと、私が押し入れを開けたら、ぼんたがいなくなってた。

私は、毎日探したの。だけど、どこを探してもぼんたは見つからなかった。私が、公園でひとりぼっちで泣いていても、とうとうぼんたがあのとときみたいに、迎えに来てくれることはなかった。

あんなに、誰よりも仲良しだったのに「さよなら」も言ってくれないままだった。

ぼんたはウサギ。

大きな大きなちやいろのウサギ。

私がすっかり大人になった今は、ぼんたは私の子供たちのいちばんのお友達。

みんなが、ぼんたを大好き。

ぼんたも、みんなを大好き。

ずっといつしょ。

ずっと大好き。

(後書き)

ぼんたは作品内で「ウサギ」とは言われていますが、実はウサギに似た全く別の生き物かもしれませぬ。例えば、子供の頃にしか見えない存在、一種の妖精のような。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9472p/>

ちやいろのぼんた

2011年1月9日05時51分発行